

小倉 久美子

痴呆ケア研究所 専任研究員

痴呆性高齢者の夜間頻尿を減らすケアに関する研究

本研究は、認知症高齢者の生活リズムを整えることを目的に、夜間頻尿に焦点を当て、具体的な排泄ケアを展開していくことを試みる。本研究においては、これらを鑑み夜間頻尿に対する具体的な排泄ケアを実施し、それを通し高齢者の生活リズムが整うことに関与することを実証するものとする。

本研究は2調査で構成される。調査1は1件における要介護認定高齢者の夜間頻尿の実態調査であり、質問紙調査とした。調査2は対象者50名に対して夜間頻尿を減らすケアの介入調査とした。

夜間頻尿に関する実態調査とケア介入調査のまとめを6点挙げておく。1) 要介護認定者の約3割が夜間頻尿で悩んでいるし、それに当たるケアも様々な工夫がなされている、2) 夜間頻尿のある多くの高齢者は睡眠不足を訴え、認知症高齢者ではその3割が周辺症状やせん妄を巻き起こしていることもわかった、3) 夜間のケアでは、排泄ケア増加、周辺症状への対応などに終始しており、精神的苦痛を訴えているスタッフも少なくない。4) 今回ケア介入した対象者の75%が、ケア介入により夜間の尿回数が減少し、日中の尿回数が増加した。5) それらの対象者らは、回数の変化のみではなく日常生活上でもプラスの変化を起こしている。多くの対象者は日中の生活リズムの調整ができた、6) ケア介入をするためには、排泄・活動などに伴う的確なアセスメントが重要であり、そのことが正確なケア介入につながっていることもわかった。

今後は、在宅での排泄アセスメントとケア介入を試み、高齢者本人と家族の安定的な暮らしを支援していきたいと考える。